

マツカサガイ *Pronodularia japonensis* (Lea)

【選定理由】

本種の属するイシガイ科貝類は、河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかで底質が砂泥で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布を持ち多産したイシガイ科貝類全体(愛知県科学教育センター, 1967)の生息が危機的状況である。本種の県内における生息場所は木村(1994)を含めて現在5カ所しかなく、絶滅の可能性が非常に高い種と評価された。

【形態】

日本産イシガイ科貝類としては通常小型な部類で、殻長5 cm程度であるが、湖沼産の個体は大きくなり8 cmを越す個体も採集される。オバエボシガイほどではないが、殻長に比べて殻高が大きく、輪郭は方形に近い。殻の後部には分岐した肋状の強い彫刻があり、前部にかけて弱くなり縮緬状から顆粒状の彫刻が覆う。この殻表の彫刻が「松毬」を連想させこの和名がある。ただし殻表の彫刻の著しく弱い個体も見られる。主歯は三角形で強く、後側歯も強く長い。



岡崎市ため池(詳細は非公開), 2010年8月27日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

1960年代中頃までは木曾川水系の日光川、五条川、矢作川水系、豊川水系などで広く生息が確認されていたが(愛知県科学教育センター, 1967)、県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で、木村(1994)では1カ所でのみ生息が確認され、その後の調査で2カ所の生息が確認された。ただし、そのうちの2カ所では極めて個体数が少ない。豊川市白川でわずかに生息を確認したにすぎず(木村・浅香, 2004)、2005年木曾川本流の調査でも生息が確認できなかった(木村, 2006)。岡崎市内では1ヶ所の小規模なため池に、わずかな個体数の生息が確認されている(木村, 2014; 上図)。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道、本州、九州の河川下流域、湖沼に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したように、河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかな砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述の通り生息地の破壊が極めて深刻で、絶滅が危惧される。

【保全上の留意点】

水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、イシガイ科貝類はグロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない。従って、他の淡水生物を含めた生息環境の保全が不可欠である。

【特記事項】

水産資源保護協会(1995)では「減少」とランクされ、本種の分布域全体での絶滅の危惧が指摘されている。岐阜県(2010)では絶滅危惧II類にランクされている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
岐阜県, 2010. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生動物 動物編 改訂版.
(https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/index_17185.html)
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一・浅香智也, 2004. 豊川市白川の淡水二枚貝類相. かきつばた, (29): 21-24. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. かきつばた, (32): 22-25. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2014. マツカサガイ. in: レッドデータブックおがさき 2014. p. 321. 岡崎市.
水産資源保護協会, 1995. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料(II), 131pp.

(木村昭一)